

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	グループホーム ございしょの里 1号棟		
所在地	岩手県釜石市鶴住居町第23地割21番地1		
自己評価作成日	平成28年 2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0371100413-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成28年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あるグループホームを目指して、音楽療法や全体でのレクリエーションを取り入れ、他のユニットとの交流の場も増えてきている。各ユニットでもレクリエーションを取り入れたりと活動的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海岸にほど近い旧ホテルを改築しデイサービスセンターの2階に1号棟を、併設2階建ての2号棟の2ユニットで運営している。震災後5年経過したが、復興工事車両が盛んに行きかう環境にある。1号棟の利用者は塗り絵や手芸に興味のある自力歩行可能な方が、また2号棟は比較的介護度の高い方が多く入居している。壊滅的な被害で地域コミュニティが崩壊に近い現況の中にあつて地域リーダーや消防団など、運営推進委員の全面的な協力を得てリンゴ狩りや防災訓練を企画し利用者の楽しみと安全の確保に努めている。日常的に外出がままならない中で各ユニット、デイサービス利用者との交流と、ユニット毎に設置しているホールで思い思いに手芸や唱歌・談笑しながら職員の暖かい見守りの中で過ごしている。2019年ラグビーワールドカップ開催会場が近くにできることもあり、復興が進み地域コミュニティの交流拠点となれるようにしたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所理念を共有し、実践につなげていると思う。ミーティングで理念について職員全体で話し合い実践につなげています。	「太陽の如く、あかるく、あたたかく、まるく支援する」の理念のもとで、「できないことはさせない、できることをみつける」等を自立生活の支援目標として、朝のミーティングで確認し合いながら実践に繋げており、震災により沈みがちであった利用者にも徐々に笑顔が見られるようになってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の方々と山の神様の祭りに参加したり、林檎園で林檎狩りをしたり交流しております。	集落は震災後仮設住宅や転居により3分の1に減少、住人も新店舗勤務や復興工事に携わり、かつてのような交流は難しいが、施設名称の由来となっている背後にある「ございしょ山」の山の神祭りへの参加や、近くのリンゴ園のリンゴ狩り、デイサービス利用者との交流を楽しんでいる。	2019年ラグビーワールドカップ開催会場が近くに整備され周辺環境が大きく変化するこの機に、復興が進み、事業所が地域コミュニティの交流拠点となれるようにしたいと意欲を燃やしており、今後を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所独自の取り組みは、していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では、サービスの利用状況や行事実施報告を行い、委員の皆様からアドバイスを頂いており、そこでいただいた意見を参考にしながらサービスに活かしております。	会議には地域の代表者や地域包括支援センター職員の参加を得て活動状況を報告し意見を頂いているほか、会議後、利用者との交流を兼ねて昼食を共にしている。外出の機会が少ないなか、委員が実施しているリンゴ園でリンゴ狩りを実施し利用者の楽しみの機会をつくっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進委員に、行政職員がおり、色々相談して協力関係を築いております。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に委員として参画し、利用者の状況などを把握しているほか、介護認定や生活保護対応のため介護・福祉関係各課に出向いたり協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中は、必ず職員が利用者の見守りを行っており、居室はもちろん玄関に鍵をかけていない。夜間のみ安全の確保の為、施錠しています。	身体拘束廃止研修に参加したときは伝達研修を実施し、重要な事項についてコピーして配布するほか、拘束に繋がる言葉遣いにも注意しながら取り組んでいる。なお、歩行不安な利用者には呼び鈴・ふれ鈴をベットサイドに備え職員の見守り気配りに配慮し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全スタッフが、法律そのものを詳しく学ぶ機会はないのが現状です。年1度ではありますが内部研修を行い、虐待はあってはならない指導をしております。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・事業所で、地域福祉権利擁護を利用されている方が、3名おります。しかし、全スタッフが専門的な外部研修を受けていないのが現状です。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結、解約については、サービスを利用する前に、利用者及び利用者家族に対して契約書及び重要事項説明書を用いて説明しております。その上で、署名捺印を頂いております。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・相談及び苦情受付窓口を設けている旨、重要事項説明書に記載しております。又、見やすい場所ということで玄関に「投書箱」を設置してあります。現状は、苦情要望受付はありませんが、担当スタッフが敏速に対応する仕組みとなっております。	ご家族が支払いのため来所した時は色々意見交換する機会としている。また、ホーム広報「ごいしよの里」を毎月発行し、利用者の近況も添えて送付している。家族からの意見は少ないが、利用者の「言づけ」を加筆してほしいとの意見・要望が出されている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日ほんの少しでも話す機会を作っている。	ユニット毎に行う毎朝のミーティングや、毎月の合同の職員会議で話し合い、例えば、歩行困難な利用者向けのシルバーカーの購入や、戸外パーベキューや納涼会用にテントが必要との提案が出され購入するなど、職員提案が反映されている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修を受講している。 ・内部研修を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会の定例会に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービスを利用する本人から意向を伺うよう、努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービス利用を希望される御家族からも意向を伺うように、努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者の基本情報、家族からの情報をサービスケアの参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・普段利用者、職員が楽しみ事を一緒に、楽しむよう心がけております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・月1回のお便りを通して、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者の希望があれば随時、対応していきたい。	震災により馴染みの場所や、人との関係継続は中々難しい状況にあり、まだ心に痛みを抱えている利用者もいるが、その中で近くの店に買い物に出かけ店員と新たな馴染みになったり、デイサービス利用者との触れ合ったり、また定期的に訪問頂いている美容師との馴染み関係の継続に努めている。	家族は、震災復興に向けて一生懸命取り組んでおり、これがホームへの来訪機会の疎遠の要因ともなっているが、引き続き広報で日常の様子を伝えるとともに、普段の思い等を伝える手紙や電話などの活用も一考である。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の助け合いと支え合いが出来るような支援を日常行っている。食事の際、同じテーブルを囲み、お互いが気持ちよくいられる雰囲気作りを心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現時点においては、契約終了後に、継続的な関わりを必要、希望する方はおりませんが、今後継続的な関わりを必要とする利用者、家族がいたら誠意をもって対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の介護の中で、利用者の話に耳を傾け、希望や意向の把握に努めている。	ソファでゆったりしながら職員と昔の思い出話をしたり、入浴時に家事や役割分担でやってみたい事を聞いたり、時には飼い猫に会いたといった希望が出され、これを申し送りノートに記録整理し、更にミーティングでも話題にしながら、希望が叶えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・契約時、本人や家族から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引継時、口頭で状況報告の上で申し送る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画は、家族・本人の希望や意見を取り入れて作成している。	入居時のアセスメントを基に本人・家族の意向を再確認し、職員意見を参考に介護計画を作成しているが、通常は、毎月、モニタリングを行い、達成状況を確認し、定例会議でケース検討を行い、必要な見直しを行いながら現状に即した介護プランづくりに心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引継時、口頭で状況報告の上で申し送る。 (職員間の情報交換現状の把握)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・グループホーム内でのデイサービス、ショートステイは、実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・基本的には、家族同行をお願いしていません。但し、緊急時については、家族の希望を優先させ、職員が同行支援する事がある。	医療受診は、家族同行を基本としているが、緊急時や定期通院で家族対応が困難なときは職員が同行し、更に職員対応が困難な時は、市社会福祉協議会の「すずらんふれあいの会」に同行依頼をしている。なお、訪問診療を利用している利用者が2ユニットで4人いる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師がいないので、バイタルを測定し、日頃と変わった時は、すぐに病院受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院が必要となった時は、その利用者の経過記録を報告する事や、普段の様子(介護サマリー)を詳しく伝えるようにしている。早期退院計画は、していない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・異常時は、かかりつけ医に連絡・受診し医師の判断をあおぐようにしています。	重度化・終末期は原則対応困難である旨契約時に説明しているが、現実には事業所での看取りをせざるえない状況にあり、訪問クリニックの協力を得ながら数名の看取りを経験している。現在も寝たきり状態の利用者がいることから職員の介護力の向上と看取り体制の構築を図る必要性を感じている。	震災後の復興に向けて家族の生活再建優先の暮らしや地域の医療・福祉施設の課題もあり、現実、事業所での看取りが求められ経験をしている。在宅医療との連携もあることから更なる職員介護力の向上と看取り指針の作成検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルがあり、職員がいつも閲覧できる場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練は、年2回行っている。	両棟とも居室は2階にあり階段、エレベーターが避難経路である。消防署・消防団の協力を得てデイスービスとの合同で年2回火災想定避難訓練・通報訓練を行っているが事業所の周囲は街灯・民家も少なく車いす利用者、寝たきりの利用者もいることから夜間の防災が心配されるとしている。	利用者の安全確保のため、職員の少ない夜間災害想定や2階からの避難方法など、これまで経験したことのない、訓練経験を積むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーや誇りに配慮し、普段から言葉使いについては、気をつけている。言葉使いや対応については、職員間で声を掛け合って直すように取り組んでおります。内部研修を行っている。	運営の基本方針、「人権、人格尊重」と理念「あたたかく」を合言葉に、利用者への言葉遣いに気配りしている。特に日常の支援では入浴・排泄時における羞恥心や一人ひとりの生活歴に留意し、ラウマやプライバシーを考慮した会話に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・方言を使用し、入居者とゆっくりと会話している。 ・服装、食事等で利用者に対して見守りの中で、自由にさせて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来るだけ、多くの利用者の希望が実現できる様に、その都度、意向を伺っておりますがその希望全てに、応え切れない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・入居者の希望に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者の希望に任せている。希望メニューを聞いたり、後片付けを一緒に行っている。	食事は利用者の好みや希望を聴きながら、各ユニット毎につくっている。家事の分担や、買い出し、調理、後片付けは職員と一緒にしている。食材は魚類、タラの芽やフキノトウ、松茸等の季節に応じた山菜、更には菜園で栽培した野菜など、様々な食材を活用しており食事づくりは大きな楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・身体状況や咀嚼能力に応じた献立に、努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・声掛け誘導で行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・便、尿の回数チェックを行っています。声掛けで良い方、見守りが必要な方、積極的な関わりが必要な方、それぞれに合わせた排泄支援を実施しています。	排泄チェック表を参考にしぐさや表情に留意し介助の必要に応じて声がけ、見守り、トイレ誘導をしている。1号棟は全員がトイレ排泄である。2号棟はおむつ利用者もいるがリハビリパンツから布パンツに改善した利用者もあり、トイレでの自力排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘予防の為に、植物繊維、水分、乳製品を多く撮れる様な工夫と他に、適度な運動をしてもらう様支援しております。排泄チェック表を活用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・基本的には、入居者の自由にし、希望がない時は、3日に1回にしています。入浴中は、楽しく気持ちよく過ごして頂ける様、会話を多くし発言を引き出せる様に、心掛けています。	週2~3回の入浴頻度で午前中の中の入浴、夏季は状況に応じシャワー浴もある。1号棟は個浴で、2号棟は2~3人入浴可能な浴槽で、1号棟の利用者が入浴するときもある。時には菖蒲湯や入浴剤で季節感を演出し会話を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居時、タンスや布団は、普段から使い慣れている物が良いと伝え持ち込んでもらっている。又、就寝時間や昼寝時間は、決まらずに利用者のペースに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・医師の指示通り服薬を実行(ホーム管理)、注意をはらっている。服薬リストを介護日誌にセットし、職員全員が目をとおす様支持している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・休憩室で編み物をする入居者、ぞうきん掛けをする入居者、それぞれ好きなものをしてもらっています。得意分野で力を発揮してもらえる様、お願いできる様な仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は、希望により日常的に散歩(施設中庭)を行ったり、バスハイクに出かけたりしています。 (桜見物、紅葉見物、林檎狩り等)	ホーム周辺は復興工事車両の往来が激しく騒音や粉塵・交通事故の危険が多いため、普段は天気状況を見ながら気分転換のため庭広場で花壇や菜園に触れたり、自然浴と会話を楽しんでいる。四季折々にサービスのバスで花見や紅葉狩りに橋野高炉周辺や仙人峠、道の駅での買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・入居者の預かり金は、施設で管理している。入居者が希望する時は、職員が同行するなど対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族や大切な人に手紙を出したいという入居者はおりませんが、家族に家族に電話をかけたいという入居者には、職員がついて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有の空間は、清潔第一に考えています。その上で快適に過ごして頂ける様、花を飾ったり、季節ごとの飾りつけを行いその雰囲気を楽しんでいただいています。	1号棟はデイサービスセンターの2階に、2号棟は2階建て居室と共用空間が入り組み少し複雑で1号棟とは2階の廊下で繋がっている。各棟に談話室があり夫々窓辺に鉢花、利用者の手芸作品が掲示されている。洗面所周辺に生活用品、談話室周辺にレクリエーション用具類が置かれている。	利用者の見守り、気づきに細心の心配りで支援しているが、レクリエーション用具類が多く置かれ、又日常生活必需品と洗濯用漂白剤と一緒に置かれているので、安心安全の面から収納方法の工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・談話室2階の廊下に椅子を用意し、思い思い過ごす場所は、確保できています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に居室は、自分の家と同じを考え、利用者に、今まで使用していた物を出来る限り私用する様進め、利用者の好みに任せています。	居室ベッドはレンタル利用となっている。備付け収納空間は特になく、各自が用意した整理タンスや収納ボックスにより整理整頓されている。居室には家族の写真や位牌、愛用の品々を飾り、落ち着いた雰囲気でも過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、階段、トイレなどすべて歩行できる場所は、手すりを設置し、浴槽には、入居者に合わせて使用できる様(浴槽内・外)に、椅子を設置しています。又、廊下には、一休みできる場所を設けるなどの工夫をしています。		